

橋設計の本を出版

『実務的、若い人に』と右城さん

★県内の技術士(建設部門)で最年少の右城猛さん(31)が「高知市葛島四丁目」が「中小橋梁の計画」を自費出版した。五日夜、同市内のホテルで出版記念会が開かれる。

高知工業高を卒業し、徳島大工業短期大学部で土木工学を専攻。在学中から徳島市内の建設コンサルタンツ会社に勤務し、主に支間五十メートル以内の中小橋梁(きょうりょう)の計画、設計を手掛けた。約二百種を設計し、二年前には離島の技術士(建設部門)で高知県は有資格者七人の試験にハ

スした。

この春、高知市高須新町にある「第一コンサルタンツ」に取締役・技術部長で迎えられ

た。この本を執筆したのは、県内業者には、橋梁設計技術をもっと高めてほしい、との願いから。「高知県は地形的に橋が必要なのに、高知大に工学部がなかったせいか、設計技術は高いといえない。県外業



著書を手にする右城さん

者がたくさん入っている。徳島県は、こんなことはなかった。実務に即した内容なので、若い人に読んでもらいたい」この十月には、若手設計士の学習の場として県技術士会を結成、世話役をしている。本は希望者に一部三千五百円で分けている。

快適空間づくり 女性の感覚重視

★吾川郡伊野町八田に造成中の天王ニュータウンの建設計画に参加している一級建築士、木山千鶴さん(31)が、奈良県北葛城郡当麻町で来高していた。

『町の真ん中に川を流し、そ

ひーぷる